

平成26年3月25日

公園 Note・おおつ公園レポ の導入について

公益財団法人 大津市公園緑地協会

1. 公園管理の現場では

指定管理における公園管理は、経営的に大変きびしい状況を迎えており、より効率的な管理運営が求められています。

管理対象施設の増加・多様化	管理費等予算の縮減
利用者ニーズの多様化 苦情要望の増加	災害時の対応
住民参加など 多様な組織の参画	報告資料の増加

より効率化が求められている

2. 公園管理に IT を取り入れる

- (1) IT を取り入れ、管理の効率化と、ボランティア活動を推進することで、利用者により良いサービスを提供できないか模索。
- (2) 株式会社公園マネジメント研究所(大阪市)が開発した、スマートフォンの公園管理システム「公園 Note」をベースに当協会の業務内容に合わせてカスタマイズしたシステムを導入。
- (3) 職員への導入 ・ 市民の協力を募集。
- (4) 公園管理の効率化安心・安全・快適な公園を目指す

3. 公園 Note とは

- (1) 公園管理の実務者向けの記録アプリです。
- (2) 株式会社公園マネジメント研究所(大阪市)が開発しました。
- (3) スマートフォンで写真とメモを取るだけで、点検や作業などの記録が日時や場所の情報とともに整理できます。
- (4) 汎用性が高く、業務に応じたカスタマイズができ、公園のみならずさまざまな分野に応用できます。
例) 写真・地図・報告書 を現場から本社へ報告する業務全般に利用できます。
- (5) オープンソースをベースにしており、安価に導入が可能です。

4. 公園 Note を採用した理由

- (1) 情報が即座にスマートフォンとパソコンで共有できること。
- (2) クラウドシステムであり、高いセキュリティで安心して利用できること。
- (3) 職員の利用だけでなく、市民投稿システムとしても使えること。職員・市民の二本の柱で運用できること。
- (4) システムがシンプルであるため、比較的小さな組織でも採用できると判断した。
- (5) 導入費・運用費が比較的安価であること。
- (6) 開発元(公園マネジメント研究所)がシステム開発だけでなく公園の管理・運営のコンサルティングもできること。

5. ガバメント 2.0 海外の動き

- (1) 「ガバメント 2.0」とは、IT 技術を活用し、まちづくりを公務員のみでなく市民も参加して自治を行なう考え方です。
- (2) 当初は、欧米を中心とした取り組みでしたが、最近、日本でも注目されています。また、NHK のクローズアップ現代でも取り上げられています。
- (3) 海外の事例
 - ・ ニューヨーク市の公園点検プログラム (Parks Inspection Program P I P) (ピーアイピー)
 - ・ サンフランシスコ市の「ParkScan」(パークスキャン)
 - ・ シカゴ市の「Improve Chicago Parks」(インプローブ シカゴパークス)
 - ・ 英国の Fix My street (フィックスマイストリート)



6. ガバメント 2.0 国内の動き

- (1) 千葉市は、平成 26 年 9 月から市民投稿アプリの本格運用を実施しています。(予算：6,600 万円/5 年)
- (2) 大阪市・愛知県半田市は、市民投稿アプリの実証実験を実施しましたが、活発に全国的に広がっているとは言えません。
- (3) 相模原市は、市民が道路の破損状況等をスマートフォンで通報するアプリ「パッ！撮るん」を平成 27 年 4 月からの実施を目指し、平成 27 年 1 月から試験運用を開始しました。
- (4) 国や自治体が蓄積した膨大なデータを一般公開する「オープンデータ」の推進を総務省がリードし、各自治体の取り組みが進みつつあります。

千葉市 ちばレポ



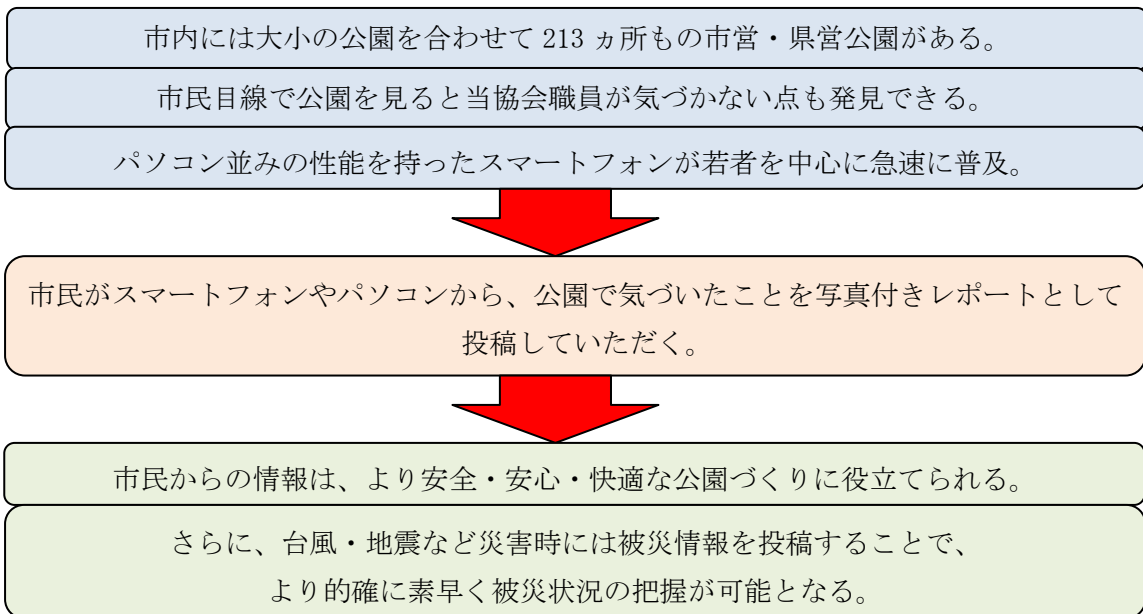
大阪市 マイコミおおさか



総務省 オープンデータ戦略の推進

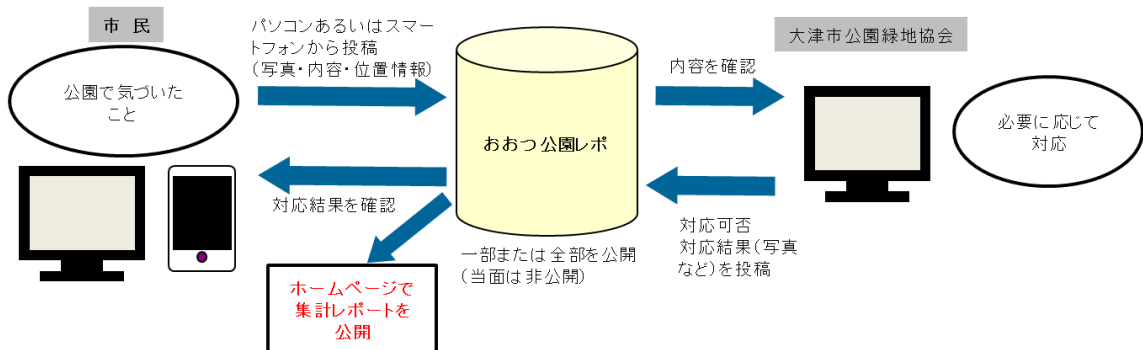
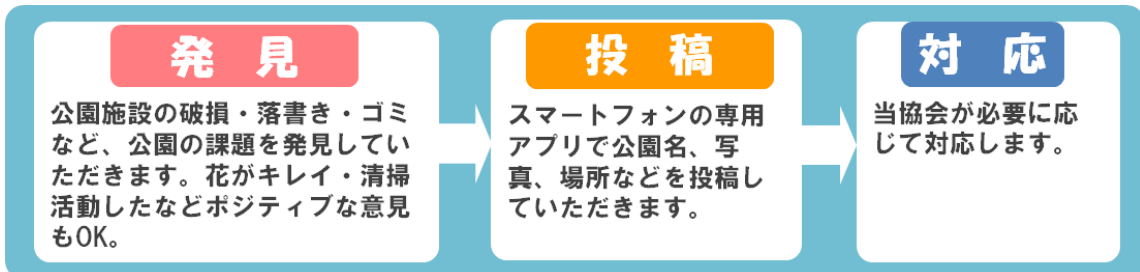


7. おおつ公園レポ 導入の背景



8. おおつ公園レポ とは

- (1) 市民の皆様は公園のサポーターとして、スマートフォンやパソコンから公園で気づいたこと（施設がこわれている・ゴミが散乱しているなど）を投稿していただく取り組みです。
- (2) 「公園 Note」をベースに市民向けにカスタマイズしました。



9. おおつ公園レポ の操作概要

投稿は4ステップで、写真、公園、場所、内容を登録します。

写真を撮影

公園を選択

場所を指定

内容を入力

(2) 登録した情報は「見える化」され活用できます。

一覧で確認

地図で確認

報告書を自動作成

種別	年度	公園	種別
XX平第3公園 要望・作業 報告書			
日付	2014年11月29日 水曜日	時刻	10:51
番号	2005	要望分類	作業
登録者	公園係	要望分類	植物管理-伐木・枯枝処理
連絡者氏名	XX	連絡者職名	XX
内容			
マンタイムで伐れたアカマツの伐りかたが、伐死しています。			
伐れたアカマツ伐り作業中。		マンタイムで伐れたアカマツ、伐死しています。	
勤務者	XX	記録日	2014-11-05 金
人数・時間	2人 1時間	作業高	1米
施設-経路	伐れたアカマツ伐り完了、1米。		

エクセルで確認

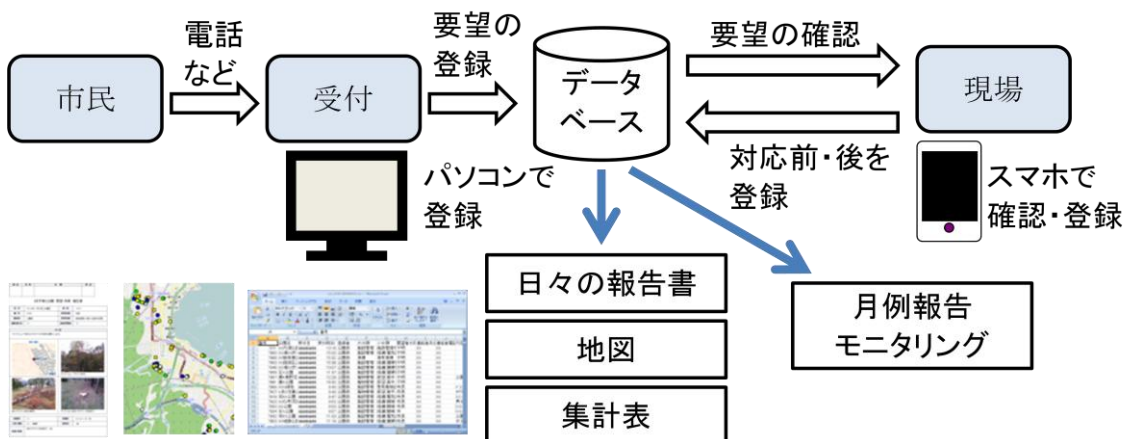
10. 導入計画

- (1) ステップ1・2・3と、段階的に計画を進めます。
- (2) オープンソースを採用することで導入費を抑えました。
- (3) 現在ステップ2が完了し、ステップ3の準備をしています。

	ステップ 1	ステップ 2 (実証実験)	ステップ 3
期間	平成26年4月1日から運用継続中	平成26年10月1日から平成27年1月31日まで	平成27年早期(予定)
対象公園	大津市内213個所の市営公園全て 滋賀県営公園(湖岸緑地及び2公園)	当協会の指定する(市・県営)公園(4学区11公園)	大津市内213個所の市営公園全て 滋賀県営公園(湖岸緑地及び2公園)
対象者	当協会職員	対象となる公園周辺の方	大津市全市民
公開範囲	当協会職員のみ公開	当面は、投稿内容は非公開。(他の人の投稿は見られない)	投稿内容は、実証実験の結果を検証し全て公開の方向で検討中
概算費用	導入費：110万円 運用費：12万円/年	導入費：75万円 運用費：12万円/年	

11. ステップ1 当協会職員による運用

- (1) 平成26年4月1日から実施しました。
- (2) 職員間で課題の共有化・見える化を実現しました。
- (3) 設置者への報告書作成の時間が削減できました。
- (4) 最初はなじめなかった職員も、今ではないと困るという声も聞く。仕事の成果を確認できるのもやりがいにつながっています。

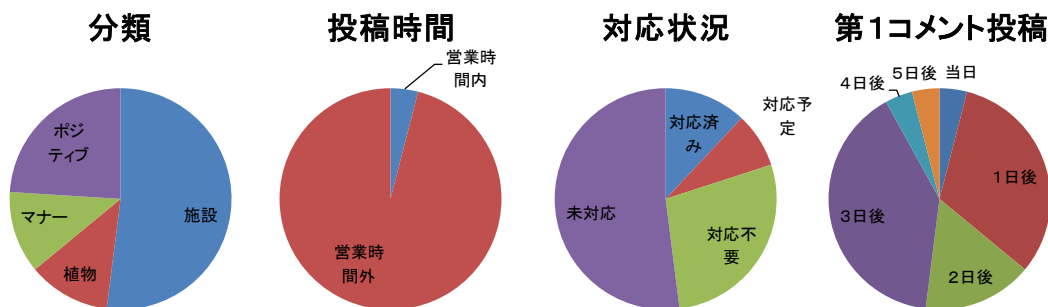


1 2. ステップ2（実証実験） 市民による運用－概要

- (1) 実施期間：平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日
- (2) 対象公園：市内 4 学区の計 1 1 公園
- (3) 対象者：公園周辺の住民および利用者
- (4) 参加方法
 - ・ 本名での登録制とする
 - ・ 申し込み用紙を郵送または FAX する。
 - ・ 個人情報の保護を重視し、使用目的を明確にした。
- (5) 広報
 - ・ 自治連合会への説明
 - ・ ホームページで告知
 - ・ イベント等でのチラシ配布

1 3. ステップ2（実証実験） 市民による運用－結果

- (1) 投稿数：31 件 ユーザー数：16 名
- (2) 分類・・・施設関係の問題報告が多い。紅葉がきれい、清掃活動しました、などポジティブな意見もあった。
- (3) 投稿時間・・・ほとんどは土・日か早朝の投稿であり、当協会の営業時間外であった。
- (4) 対応状況・・・未対応が約半数を占めた。
- (5) 第 1 コメントの投稿日・・・ほとんどの投稿に対し、3 日以内に 1 回目の返事をした。



- (6) 良くなかったところ
 - ・ 未対応が約半数あるが、なぜ対応ができないのか説明が無い。
 - ・ 対応後の写真が投稿されてない。
 - ・ ユーザー数が少ない。
 - ・ 投稿数が少ない。投稿が一部ユーザーに集中していた。投稿数がゼロのユーザーも。
- (7) 良かったところ
 - ・ 危険発見につながる事例があった。
 - ・ 不適切な投稿がゼロ件だった。
 - ・ 営業時間外の投稿が多く、当初のねらい通りだった。

・ マスコミに多く取り上げられ当協会のPRになった。
平成 26 年 11 月 15 日 京都新聞



平成 26 年 11 月 1 日 びわ湖大津経済新聞



平成 26 年 9 月 16 日 クラウド Watch



平成 26 年 5 月 22 日 滋賀報知新聞



(8) 改善策

- ・ 説明不足
原因は、対応できるかはっきりしないものは回答を控えていたため。危険箇所など緊急を要すること、すぐできること、大がかりで時間のかかるもの、できないものなどレベルを分け、できないものはできないとはっきり回答する。また、それらの回答ができる執行体制を見直す
- ・ ユーザー数が少ない
原因は、公園を限定したこと、申し込みが WEB からできなかったこと、主な周知手段が自治連合会だけであったことなどが考えられる。
申し込み方法を見直し、PTA や大学そしてボランティア団体などへ積極的に周知し、ユーザー数を増やす努力をしたい。
- ・ 投稿数が少ない
積極的に投稿してもらうため、「各公園の開花状況を投稿してください」など当協会がテーマを出し、投稿を募るなど、楽しみながら投稿できる機会を増やしたい。
また、ガバメント 2.0 は市民が参加してこそ成立するという共通認識を持ち、より多くの市民に参加してもらいたい。

ステップ 2 の課題を洗い出し、ステップ 3 につなげます。

1 4. ステップ3 に向けての挑戦

- (1) ステップ3 では、範囲を全市の公園に広げ、市民が投稿した内容はオープンにする予定です。宅急便の追跡サービスの手法を取り入れ、課題の状態の見える化を実現します。
- (2) 対応できるもの・できないものを早期に判断し、できないものは、相手方と話をすることで解決していきます。
- (3) 投稿内容がオープンになれば、市民が自主的に公園の課題を解決するボランティア活動が期待できます。また、そのような活動を活性化する環境を整えます。
- (4) タクシー無線のように、投稿を受けると、対象公園の近くで作業している職員がその日に対応できるような体制を検討します。
- (5) 会員登録については、郵送・fAXで行ってきましたが、WEB（インターネットなど）で行えるよう検討しています。

課題は多くありますが、投稿という人の善意を大切に
利用者目線で考え、挑戦していきます。